

# 陶質土器の観点からみた 初期須恵器の年代

The Perspective of Early Sueki Based on the Ceramic

金 一圭

金 憲爽[訳]

KIM II-kyu Translated: KIM Hun-Suk

はじめに

①陶質土器の出現と変遷

②初期須恵器の検討及び編年

おわりに

## 【論文要旨】

この論文は洛東江下流域の陶質土器と日本の初期須恵器を比較検討し、須恵器の編年およびその生産時点を把握した研究である。

陶質土器は出現から新羅様式導入以後まで10段階に分類した。陶質土器は後期瓦質土器と中国後漢鏡の年代および日本の前期古墳の編年に対比した結果、I段階は250年頃の年代が導出された。X段階は皇南大塚南墳を訥祗王陵に比定し458年頃の年代を得ることができた。また、Ⅳ段階からは洛東江下流域に新羅様式土器が導入されたことを確認した。

日本列島出土の最古の初期須恵器に分類される持ノ木古墳の周濠と宇治市街遺跡のSD302地点の流路から出土した初期須恵器は前者がⅣ段階とⅤ段階、後者はⅥ段階とⅦ段階およびⅨ段階以後に当たる新古の多数の型式が混在されていることを確認した。

これは宇治市街遺跡のSD302地点の流路から出土した遺物が同時に廃棄された可能性が低いことを意味する。また、宇治市街遺跡のSD302地点の流路から出土した木製品の伐採年代は、一部遺物に限ってその上限が決定できるかもしれないが、全体遺物の廃棄時点あるいは下限年代は決定できないことを示唆する。

それに持ノ木古墳の周濠から出土した土器等は祭祀行為の貢献品と推定されるため祭祀の回数に複数の時間性が反映されるか、あるいは古式土器遺物の伝世の可能性が示唆される。

また、この二カ所の遺跡から出土された初期須恵器は、比較される陶質土器の段階、在地化の程度、陶質土器との類似性等から生産遺跡である大庭寺遺跡のTG232号窯の初期須恵器より確実に古式に該当する。

TG232号窯の初期須恵器は陶質土器と比較した結果、大部分Ⅸ～X段階に当たる陶質土器の一部属性のみで類似性が確認されるため、ほぼ在地化された型式と見ることができる。

完成した須恵器のTK208段階は玉田M3号墳段階の遺物等と同伴されるため、5世紀末と編年される。

【キーワード】 洛東江下流域、陶質土器、初期須恵器、須恵器、新羅様式土器、伝世、在地化、持ノ木古墳、宇治市街遺跡、TG232号窯、TK208段階